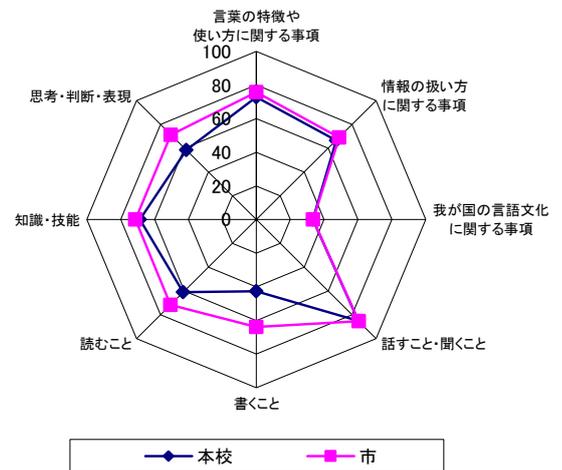


# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.8	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	66.7	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	33.3	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	85.2	85.5	86.5
	書くこと	42.6	63.9	65.8
	読むこと	61.1	71.6	69.5
観点別	知識・技能	68.7	71.3	72.9
	思考・判断・表現	58.5	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

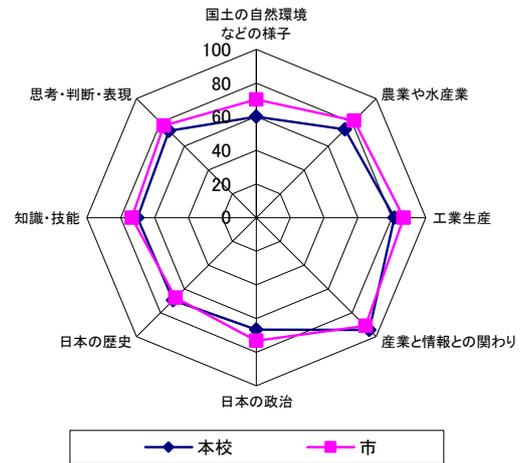
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を3ポイント下回った。</li> <li>○漢字の読み書きに関しては、6問中3問で正答率が100%と高い水準であった。</li> <li>●文と文との接続の関係について理解し、文章を2文に分ける問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の学習については、学年の漢字を繰り返し練習し、下の学年の漢字についても、自主学習などを利用して復習し、確実に習得できるようにする。</li> <li>・言葉の学習では、文と文との関係を意識して、全体の構成を捉えられるようにする。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を2.4ポイント下回った。</li> <li>●原因と結果など、情報と情報との関係について理解する問題では、市の平均正答率を2.4ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んだり書いたりする活動の中で、文章の構造を理解できるように、図解や対比を用いて、整理・表現する指導を取り入れる。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均と同程度であった。</li> <li>●和語、漢語、外来語について理解する問題では、市の平均正答率を0.2ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、言語文化に対する関心を高めるような話題を提供したり、朝の学習や家庭学習(宿題・自主学習)等で取り組ませたりし、日本語や日本文化についての見識を高める内容を奨励したりする。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均と同程度であった。</li> <li>○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、市の平均正答率を8ポイント上回っている。</li> <li>●話し方の工夫として、適切なものを選ぶ問題では、市の平均正答率を11.5ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の考えを自分の考えと比べながら聞いたり、根拠を明らかにして自分の意見を伝えたりする話合いの学習形態を、学年の発達段階に応じて積極的に取り入れる。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を21.3ポイント下回った。</li> <li>○目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にする問題では、市の平均正答率を24.8ポイント上回っている。</li> <li>●自分の意見とその理由を明確にして文章を書く問題では、市の平均正答率と比べ大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の時間だけでなく、他教科や行事などの機会を生かし、文章を書くことに慣れさせる。また、伝えたいことや理由を明確にした作文指導を、学年の発達段階に応じて積極的に取り入れる。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を10.5ポイント下回った。</li> <li>○説明文の内容を読み取り、目的に応じて文章の情報を整理する問題では、市の平均正答率を5ポイント上回っている。</li> <li>●物語の内容を読み取り、登場人物の心情について、描写を基に捉える問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読む時に、時間や場所、様子を表すキーワードを見つけながら読み進めていくよう指導する。</li> <li>・朝の読書や読み聞かせなどを利用して、読書活動を推進していくことで、読むことへの関心を高める。さらに、読書の幅を広げられるようにいろいろな分野の本を紹介する。</li> </ul>

# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	60.0	70.3	66.4
	農業や水産業	74.1	81.6	75.3
	工業生産	81.5	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	94.4	91.0	81.3
	日本の政治	66.7	73.2	75.3
	日本の歴史	69.4	67.4	68.5
観点別	知識・技能	70.1	73.5	72.5
	思考・判断・表現	72.8	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

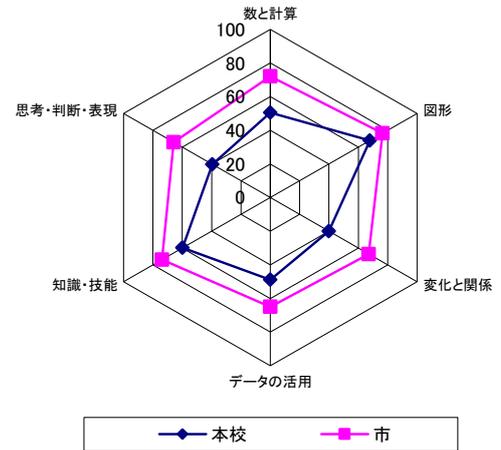
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を10.3ポイント下回った。</li> <li>○人工林の役割について選ぶ問題では、市の平均正答率を8.9ポイント上回っている。</li> <li>●地図上の赤道について答える問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・世界の中の国土や自然環境について、授業の中で名称を覚えるだけでなく、地図や地球儀を活用しながら、場所を確認して指導を行うようにする。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を7.5ポイント下回った。</li> <li>○米の生産が盛んな地域についての問題では、市の平均正答率を5.2ポイント上回っている。</li> <li>●米の品種改良について理解し、資料を基に記述する問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業や水産業について学習したことを、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの発展について、自分の考えをまとめて表現する学習を取り入れるようにする。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を5.5ポイント下回った。</li> <li>○安全性の高い自動車づくりについての問題では、正答率が100%と高い水準であった。</li> <li>●自動車の製造工程についての問題では、市の平均正答率を10.8ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの作業工程を丁寧に説明したり、流れを捉えられるようにしたりする。また、児童が身近な工業製品のことを考えたり、実際に工場見学に行ったりするなど、体験的な学習を取り入れるようにする。</li> </ul>
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均を3.4ポイント上回った。</li> <li>○情報の発信と受信の注意点についての問題は、正答率100%と高い水準であった。</li> <li>●情報を生かした産業についての問題は、市の平均正答率を4.2ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や映像資料を活用したり、関係を表や図でまとめたりし、情報を生かした生活の場面を捉えられるようにする。</li> </ul>
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を6.5ポイント下回った。</li> <li>○日本国憲法についての問題は、市の平均正答率を7.7ポイント上回っている。</li> <li>●租税の役割についての問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の政治について、役割と仕事の流れを関係図にまとめたり、児童の身近な問題と結び付けたりして、理解を深められるようにする。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均を2ポイント上回った。</li> <li>○かな文字についての問題では、正答率が100%と高い水準であった。</li> <li>●中大兄皇子が行ったことについての問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史上の出来事を覚えるだけでなく、それがどのような目的で行われたのか、どのような効果があったのかをおさえながら授業を展開していくようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	50.5	72.1	74.6
	図形	67.9	76.5	76.1
	変化と関係	40.0	67.1	59.7
	データの活用	48.9	65.0	64.5
観点別	知識・技能	59.8	73.8	74.7
	思考・判断・表現	39.5	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

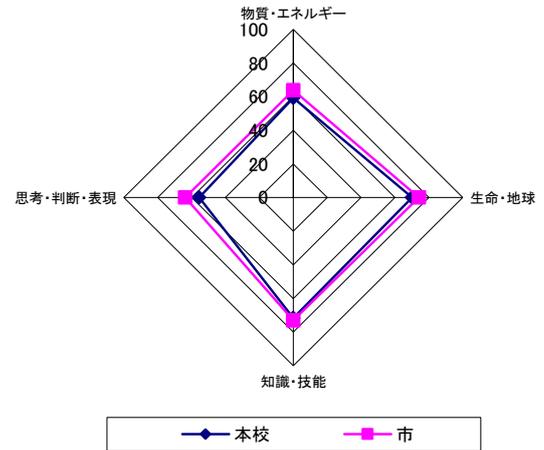
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を21.6ポイント下回った。</li> <li>○分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ問題では、市の平均正答率を大きく上回っている。</li> <li>●2つの文字式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算能力を定着させるために、朝の学習や家庭学習等を活用し、引き続き復習問題への取組を継続していくようにする。</li> <li>・文字の式の問題に繰り返し取り組み、内容の定着を図る。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を8.6ポイント下回った。</li> <li>○三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を選ぶ問題では、正答率が100%と高い水準であった。</li> <li>●三角形の2つの角の大きさから、1つの外角の大きさを求める問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の角の大きさについて、なぜその大きさになるのか、言葉や図を用いて説明を行い、理解を深められるようにする。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を27.1ポイント下回った。</li> <li>●車両数と人数の割合を求め、どの路線が混んでいるかを考える問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位量あたりの大きさについて、身の回りにある題材をもとにした活用問題に引き続き取り組む。</li> <li>・速さや割合などの問題に繰り返し取り組み、内容の定着を図る。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を16.1ポイント下回った。</li> <li>●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近が一番多いわけではないことを説明する問題では、正答率が0%と市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均値、中央値、最頻値といった代表値について、その意味と求め方を正しく理解し、様々な視点からデータを読み取ることができるよう復習を行う。</li> <li>・引き続き、自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いたりする授業展開を単元の中に位置付ける。</li> </ul>

# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.3	63.8	61.6
	生命・地球	70.1	74.1	73.3
観点別	知識・技能	71.6	73.0	71.3
	思考・判断・表現	55.6	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を4.5ポイント下回った。</li> <li>○実験の結果から、電磁石の力の強さを変える要因を選ぶ問題では、市の平均正答率を大きく上回っている。</li> <li>●電磁石の性質についての問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に捉えにくい現象等は、映像などの視聴覚教材を有効活用するとともに、日常生活の中で見られる事象を提示したり、身近なものなどに置き換えたりして理解の定着を図る。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を4ポイント下回った。</li> <li>○食物連鎖について当てはまる言葉を入れる問題では、正答率が100%と高い水準であった。</li> <li>●侵食についての問題では、正答率が11.1%と市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントを押さえた授業を展開し、分かったことを自分の言葉でまとめていく活動をすることで、基本的な用語を確実に覚え、知識として定着できるようにする。</li> </ul>

## 宇都宮市立篠井小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成 ～生活科・総合的な学習の時間の学習活動を通して～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に学べるように、見通しをもつて取り組めるような課題設定の工夫</li> <li>・児童が自分の思いや考えを伝え合えるように、対話的な学び合いを取り入れた授業の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活科・総合的な学習の時間が好きですか」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は、81%から100%であった。他の教科と比べると、高い傾向が見られた。</li> <li>・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は、学年によって差が見られたが、100%から58.3%であった。</li> <li>・「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は87.5%から57.1%であった。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

今年度、6年生は、4月の全国学習状況調査、12月の学習内容定着度調査共に、市の正答率を下回る領域が多い結果となった。特に、国語においては、書く領域、算数においては、数と計算・変化と関係の領域で市の正答率を大きく下回った。また、資料の読み取りや記述式の問題で、正答率が低かった。

このことから、次年度、苦手とする領域を意識した指導の充実に努め、基礎基本の定着を目指していきたい。さらに、授業の中で、友達と考えを伝え合ったり、説明し合ったりする機会をつくり、自分の考えを言葉にする機会を多く設定することで、主体的・対話的で深い学びにつながるような指導を充実させていきたい。